

## タスク・シフトおよび POCT 機器の併用による GTT 検査時間短縮への取り組み

©北村 真悠<sup>1)</sup>、上村 真由美<sup>1)</sup>、中山 絵美子<sup>1)</sup>、吉田 莉緒<sup>1)</sup>、中澤 央<sup>1)</sup>、新谷 彩乃<sup>1)</sup>、喜田 恵<sup>1)</sup>、坂下 真紀子<sup>1)</sup>  
特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では主に臨床検査技師が外来採血を行っている。以前の 75g 経口ブドウ糖負荷試験（以下 GTT）では、「負荷前採血後、患者は血糖値の結果が出るまで採血室前で待機→結果用紙を挟んだ患者案内票ファイルを受け取り内科受付へ行く→患者到着後、内科受付医事が看護師に患者案内票を渡し、看護師が薬剤の準備および服用の見守りを行う→患者は採血室前に戻り待機、検査技師が負荷後採血を行う」という流れで行っていた。しかし負荷前採血後から負荷開始までに時間を要する事や多職種が関わることによるインシデント発生リスクなどの問題点があった。タスク・シフト/シェアにより、検査技師も『検査にかかる薬剤を準備して、患者に服用してもらう行為』をすることが可能となり、検査時間の短縮とインシデント発生予防を目的として、2022 年 5 月より検査技師が採血から服用見守りまでの GTT 全行程を担当することとした。さらに、タスク・シフトに先立ち、より患者拘束時間を短縮するため、負荷前血糖値の代わりとして POCT 機器による血糖測定値（POCT 値）を用いることができないかを検討した。

【方法】①無作為に抽出した 50 名の患者に対し、外来採血後、採血ルートに残っている血液を使用して POCT 機器で血糖値を測定し、血糖値との値の乖離を調べた。POCT 機器は、スタットストリップ エクスプレス グルコースケトン（nova biomedical 社）を使用した。②2021 年 4 月から 2023 年 10 月において、負荷前血糖値の報告時間と負荷 30 分後血糖値の報告時間の差を調べ、タスク・シフト前後で比較した。統計解析には SPSS（ver.29）を用いた。

【結果】①POCT 値と血糖値は相関関係にあり、その差は最大 22 mg/dl、平均 4.98 mg/dl であった。②負荷前と負荷 30 分後の血糖値報告時間の差について、タスク・シフト前に比べて、タスク・シフト後は有意に減少し、平均 23 分の時間短縮が認められた。

【考察】タスク・シフトにより GTT 全行程を検査技師が担当したことで、看護師や内科受付の仕事を軽減することができた。さらに POCT 機器の併用により、GTT にかかる検査時間が大幅に短縮され、患者の負担軽減につながった。  
連絡先：0761-47-1212（内線 2130）